

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成24年度分）

団体名：与謝野町

プロジェクト名	自然と安全を守るまちの基盤づくりプロジェクト		実施期間	H23～H29	テーマ	まちの安全・安心	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>平成18年3月の3町合併により、当町は鬼退治で有名な緑深い大江山から、日本三景の一つ天橋立を望む阿蘇海へと至る広い町域を有し、その町域を南北に貫くように流れる野田川流域に美しい田園地帯が広がる、自然豊かな町・与謝野町となった。</p> <p>近年は水質の悪化や汚泥の堆積等の荒廃がみられる阿蘇海の浄化が課題となっているが、これは阿蘇海周辺だけでなく野田川流域全体の問題であり、課題解決のためには行政だけでなく全町民で環境保全に取り組む必要がある。</p> <p>また、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災は、大規模な火災や津波、原子力発電所の事故等を伴う未曾有の大災害となり、木造住宅の密集地や先述の阿蘇海を有し、また福井県高浜原子力発電所から30km圏付近にある当町でも防災・防火体制の見直しや強化を迫られることとなった。</p> <p>加えて当町は、合併前の平成16年に台風23号による被害を受けており、特に旧加悦町地域での被害は甚大であった。近年は台風だけでなくゲリラ豪雨といわれる予測困難な集中豪雨に見舞われることもあり、台風23号の経験を活かし、住民への情報伝達手段の確立等、災害時に迅速に対応できる体制づくりが課題となっている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>美しい自然環境の保全と循環型社会の形成に向けた取組によって、水清く、緑豊かで、空気の澄んだ良好な環境を守るとともに、治山治水や防災体制の強化により災害に強いまちを目指す。</p>							
	総事業費（千円）	175,174	本年度事業費（千円）	20,265	交付金額（千円）	7,476		
プロジェクトを構成する事業の平成24年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	消防施設整備事業	交付対象事業	地域防災の基盤となる消防施設の整備。			地区要望による消火栓の整備 8箇所。		
	防災行政無線施設整備事業	関連事業	防災行政無線の拡充・整備。			野田川地域の整備。		
	不法投棄対策事業	関連事業	不法投棄の防止啓発。			平成23年度に巡回車1台整備。		
	AED整備事業	関連事業	公共施設内のAED整備。			平成23年度整備。		
	浸水・地震対策事業	交付対象事業	避難所の海拔表示看板設置事業。			新たに43基設置。		
	災害対策資機材整備事業	交付対象事業	災害時を想定した避難所で必要な資機材の整備。			ストーブ42台、非常食5,800食（わかめごはん、玉子スープ）。		
住民 協働 事業	地球温暖化防止地域計画策定事業	関連事業	地球温暖化対策実行計画策定事業。			与謝野町地球温暖化対策実行計画を策定。町ホームページに掲載。		
	地域防災計画策定事業	交付対象事業	東日本大震災後の地域防災計画を見直す。			与謝野町地域防災計画策定業務委託。		
	全国消防操法大会出場事業	交付対象事業	野田川第5分団の全国消防操法大会出場に伴う事業。			10月8日に開催。野田川第5分団が出場。のべ1,257人の団員出動（当日及び訓練）。		
	消防防災フェア実施	関連事業	町消防団主催のイベント。			2年に1度開催。次回開催は平成25年度。		
	地震に強い住まいづくり推進フェア	関連事業	耐震対策をテーマにしたイベント。			9月17日に開催。約300人来場。		

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成24年度分）

団体名：与謝野町

住民が取り組む事業	阿蘇海復活プロジェクト	関連事業	地域住民による阿蘇海浄化の取組。	阿蘇海水域において地域住民参加による阿蘇海浄化活動を実施。	
成果指標①	成果指標の目標数値	常習浸水地域の減少 (H22に3箇所をH24に2箇所に減)		成果指標の実績値 (平成25年3月31日時点)	平成24年度2箇所
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	整備工事1箇所完了。さらに平成25年度に1箇所整備予定。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	
成果指標②	成果指標の目標数値	防災訓練参加者数の増 (H22の10,515人をH24に13,000人に増)		成果指標の実績値 (平成25年3月31日時点)	平成24年度8,922人
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	近年の住民の防災意識の向上や、東日本大震災の影響、自治会などの積極的な呼びかけなどにより多くの参加がある。目標値との開きはあるが、引き続き啓発活動に努める。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)	—
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	東日本大震災の影響もあり、津波や原発事故などによる備えのための整備を行ってきた。住民も防災に関する意識は高く、防災上不安のある箇所の整備など、要望のある箇所を早期に整備することで、安全・安心な生活環境の実現に繋がる。 また、住民生活に身近な避難所に海拔表示を設けるなど、住民にも実際の災害を想定しやすい環境づくりに努め、防災訓練などでも実際想定に近い設定で訓練ができ、防災意識の向上に繋がる。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	交付対象事業で安心・安全な環境整備を行い、関連事業において住民が主体となる防災開発の事業を実施した。特に啓発事業に関しては、住民に身近な消防団員等が啓発を行うことで効果があった。			
	府と市町村等との連携に資する成果	地域活性化に有効と思われる事業は府と連携して支援にあたった。			
	住民の自治意識を高める成果	避難所等、災害時に住民の利用が想定される場所の整備を行い、住民が自ら避難行動を行う際に一助となることが期待できる。			
	リーディング・モデル成果	全町に拡張されるCATV事業による加入者各戸への「FM告知放送端末機」の整備（本事業とは別事業）と連携させた、一括統制された防災行政無線システムを導入し、災害に強い安心・安全なまちづくりの実現を目指す。			
本プロジェクトに対する自己評価	広域的波及成果	防災行政無線の整備など、合併後は地域ごとにまちまちだった防災体制の統一が図れてきている。また、自然環境の分野でも阿蘇海周辺のみならず、野田川流域全体で環境保全に努める気運が醸成されてきている。			
	行財政改革に資する成果	消防施設の改修整備などにより施設の長寿命化を図っている。			